



名所方角集 全

紫田号⁷

全





自叙

名一承方角抄とて世不知れ小冊子
 何のいし書流花の慈父のいふあり
 一と予程き耐いしき忍る毎かく
 東校せいどのいんあゝおもひの
 紙小風流の容也なること其のいり
 記しりども見免つるぬめて流流幼
 学乃人の為りけ執法集はるらん

名所句集上巻

二

志何の事と申さる身は所の句を
かゝ集めしむしは申撤堂様
行せよと云ふさるは姑ながら
名取と云ふは後も何れと云ふ
さる國の解はなしかくても候ふ
涇渭名所方角集と題し社中及
同志の吟已の紀行申乃句と
後小補し添へ需は急を云ひ

集武義と云ふは首小出するのハ亭今
東都小池を云ふは社中も多
有りまのめやまからん者也
諸君と云ふは或は以掃乃人
尋てこれ小出之際武義と云ふ西南
小卦中玉と云ふは心と懸て東に帰る
方角と云ふは形也一輯る所の
句と云ふは名所也云々

亦きよ水録せざる名所と尋かるとし
 頭の際小白圈と記すは右名所に
 不記い私の爲不又いお沢村里志
 類也右取讀合せ此内又も天家降
 物植拍中と記す等、右家の諸書
 譲りて闕く只、其不限り、この
 如く思點と添く出す又讀合せの外
 小説の良材とならぬものありと尋か

鎌倉不親々、世不深ふ、世不深
 運點と名流、て出、他、い、武
 宗澄の昔と今の人、よ、い、染
 元時代の年、歴、い、倣、い、早、以
 己か、い、拾、洞、い、昔、今、流、流、と、撰、ま、
 混、て、載、之、又、由、急、あり、て、不、載、あり
 又載へき、以、淺、い、もの、あり、て、今、
 小島、い、原、高、馬、馬、の、得、い、く、作者の

本意よき事ふ句何くも速く改心
告めしるしと紙とふ
安ふと来歳夏五月

一陽井素外述

名所方角集 乾之卷 目錄

武藏	初丁	相摸	三十一	伊豆	四十二
駿河	四十三	遠江	五十一	三河	五十三
尾張	五十五	志摩	五十七	伊勢	五十八
伊賀	六十七	近江	六十八	山城	八十一

○武苑

江戸 葦原 飛麻子 文七之結 止齒麻石

江戸と以鏡と也花り梅翁 大坂

花乃雲鏡ハ上野在浅州の 芭蕉

鏡と川之似ぬ月也江原の表 貞角

六河你院へけて鳴らんははは

玉川ハいふ川不列名——公太 貞佐

武蔵野と見ぬ人多く一江の月
江戸一乃鶴ハ一のハ神ノ川と
咲橋と月月の武蔵乃江戸橋
一洗の舟ハ少キ米酒江戸秋
入およ咲橋川や江戸の長江
茶外 標舟 西外 宝馬

。眺望の富士

谷月や富士見ゆらりと後河町
半分の江戸はわりの也不たのき
古 系統 立志

富士とて見えらる、雪乃力か
鳥を遠く一丸眼小宙く秋のそら
父立やをゆき明らき西の富士
字の士はいつて忘れんとする大晦日
茶狐 梅郊 春郊 室下

日中橋 東部才一の魚市場

短秋や旭き川乃乃納屋の表
了早やとくく来ぬる日中橋
橋より日中橋も秋乃雪
茶狐 寛和 茶狐

禮乃渡

とくもや養と禮乃くしも 一鼎

○雨降く楽

ぼく	きん	ん	や	や	あ	の	ま	れ	外	貞	知
春	ら	し	の	ま	あ	の	ま	や	夏	徳	言
見	も	ら	す	や	流	く	并	乃	紙	書	
申	す	も	く	や	果	ハ	ま	あ	の	ま	れ
										貝	舎

山五社

社地晴て日くし陰より夏木之 赤竹
 猿川ハ至る處帰己乞山 梅 花籃

着ろ

○狭山の池 小田町内を流るる池なり

花白く首ふ狭山く池なり 梁山

葵う園

汲池の内

八海流や葵う園乃くろのむ 花城

芝水之宮 龜後寺

芝宮之宮とて宮町ノばくおは
蓮之
植木を小茂やひく自出宮を
風景
白雲に林蔭乃夏やあこまや乃
帯梅
晴ゆくや海をあここのまけし
芝水

眺望

きくまや花地の御堂海おー 蒼松

青松寺

若紫之那保山乃裾の青松寺 系外

版倉神明社

飾海老おのハ浮勢ノ其の神 風巻

増上寺 十八檀林方一也

寺源ノ江戸紫乃ソ花の雪し 地田
寺さすハ吹求降亡北縁納涼 津家

魚籃観音

中より右に魚の入ると持たてたの
羽衣と持てるよ

只ねめ我ホ一の為乃餅うらと 平砂

芝春日社

江戸の海やうらさけ足凡船が月 吐風

芝浦 芝青牛車

雲をきけし海士の川原に芝青 松意

芝海老の蜃も穂ふかきさの目 欠依

芝浦や車のうらさけ初らす 起波

芝浦やけりぬけ海次の遠處 貞知

鉄炮洲

夕午をき新よむ声や鉄炮洲 長雀

細雪 漁村

月のぼる雪のほめや細雪 曲菴

を枯や月さ紀ふ清き細雪 梅寿

喜がしりし 父とて母もはくは 太布
まゝぬ火の佃乃いさりほくは 系外

佃吉社 日正あり 友

粟妻、糸を穿りし 江戸の月 沾織
おぼろのなほ小見めらる 佃吉 江沙

吉池 新大橋東杉平遠州産下を差の内を
もちぬの吉池の地は正しとせよは外に
あつと云

吉池や 地をくむくらの言 芭蕉
吉池のいふも吉さ氷の那 菘狐
吉池乃昔言をなく 地 亀文
かふしといとく吉ひ之地の言 行露
吉池と公得よまの掃 深夏 亀洞
吉池や地若やく庭の所 系外

深川

深川を伏見小使する 枕の花 一晶

八幡社 日下 安かゝ園

角力ある秋や東一安かゝ園 雀安

三十三間寺 浩のうりーの大矢板を

若の女まや矢板おほはれー色とて 再賀

君の代や見人々女も大矢板 素外

洲崎の 年成天社 多美至

鏡のまむすさと刻むやは糸菰と暮 沾性

于ぬ時しよーや洲崎のまきり海 春郊

秋風小波のまきりや洲崎若美 市仙

名月や細洲さ紀もいらの溪 津安

木場 枝木並場こ

橋を金小葉のまきりよ 宗瑞

扇橋

秋風の波しをきり扇橋 西外

羅漢寺

紫梅より色の淡くや五百を江の
のけしやあけひも交る五百千梅
風涼しなる此所の遠くを
ほくおん啼や此所の龍 素外
過橋

亀戸天神社

東安楽寺 反橋 友規

新地ありかくなりもの梅の核 梅翁
御膳とくえ未葉めし御大根 米伴

反橋不言やかくむるの花 春郊
柏もや他も龜戸の喜乃子 呉龍
飛梅や安ら龍集乃枝社 紀亮
老松の若葉も神をさ富 枝静
鬼打心外も六神の川 素外

梅屋敷

枝く地不屈曲して外龍の形あり

白雪を以龍の包むや梅の志 嵐雪
只の日をよしと月を梅屋敷 柳居

命じ地もたのむ梅やきき 春来
 け梅の尾さねや雪ふ二月月 涼備
 風往あると俗あり春の梅を去 春郊
 香不群る人や外就乃梅の優
 雨ちんしきし若葉の梅やき
 雪よまや泣屋の梅角一記 吳他
 梅古一まを之二月と就の好類 吳就
 春風得く昇るふあしや外就梅 鳳堂
 ち波や白し漏ちく風乃梅 扇良

雲がくもや四川のひより川の梅のす 角藤
 雪ふれ初ふ奥あま梅や一記 二山岩 雨路境
 名みーあし梅や杖杖村まう 室言
 警小玉乃あまあま梅を額 百丈
 公よくも化しり梅の舌やき 素外

吾妻女木林
 吾妻大権祝 連理柿
 若葉をさる思ひ増し神の妻 平砂
 木はききや石ふ本ゆく梅止し 小知

平井五天神

少来秋や大根の申乃をまじ神 平砂

中川 清実亦みぬ

眼小鏡るりくらや冴の夕日乳 如雷

首飾 首西葉 ▲武総の説江戸砂子を妻一

甘菜の花や雨の首西乃西東 祇徳
干菜鳴るかか弦の梅や首西筋 茶花

首飾 江戸の朝露や首飾葉、
惜と来なくふむや若葉も春の鳥 五泉

秋葉社

実秋の七巻とあふれぬ神の猿 貞川

牛山寺 奥福寺

牛湯の牛見分ると亦下室 由林
牛湯の湯も眺つる夕かすも 梅壽

鯉イナダをくまへイナダく牛崎のききイナダ一イナダ 軽舟

牛河前社 日本

卯午のまゆイナダわ牛のまイナダのよ 柳居

白鷺社

神安イナダり一イナダ回イナダも公鷺イナダや芥イナダ菜イナダ又 芝水

隅田川 都多 岸屋の里 後河と曰ふあり

いさのほれイナダほれイナダ家の館イナダくイナダひイナダおイナダ都イナダ多イナダ 貞室
 館イナダ対イナダおイナダ貞イナダ室イナダおイナダりイナダくイナダくイナダくイナダくイナダ 治徳
 角田川イナダやイナダ田イナダのイナダ屋イナダ形イナダのイナダまイナダくイナダくイナダ 山夕
 海苔イナダまイナダくイナダくイナダ水イナダのイナダまイナダおイナダすイナダめイナダ都イナダ多イナダ 日南
 田植イナダまイナダくイナダくイナダ業イナダをイナダまイナダくイナダくイナダくイナダ 角田川
 夕月イナダやイナダ枝イナダおイナダまイナダなイナダまイナダくイナダくイナダくイナダくイナダ 越人
 よりイナダ場イナダとイナダ若イナダ葉イナダ次イナダまイナダくイナダくイナダ 角田川 龜翁
 水イナダれイナダ啼イナダてイナダ四イナダ所イナダ沸イナダくイナダくイナダくイナダくイナダ 尺牘
 名月イナダくイナダまイナダくイナダくイナダくイナダくイナダくイナダくイナダくイナダくイナダくイナダくイナダ 柳居

すこ鯨も一竿かきかきまゝの川	渭北
埋ちや江戸をけねる角田川	乾十
瓜の皮遠くともぬれまゝの川	采仲
白魚ふもれ節目や隅田川	蒼狐
洲よ人の白干葉さか角田川	春郊
柳ちる鐘は川のさせすゝ川	梅壽
鶯一つ秋と見え色まゝの川	貞知
すゝ川柳はまゝのさるる川	貞川
下戸かゝぬき人の影や都多	

ほのきさ、拾日和やまゝの川	一鼎
花咲て酒の程や角田川	五泉
鴨もぬきか佐やすゝ川	紀亮
け川の新酒飲このさるる川	吐鳳
花もや角田河原乃秋の月	兔言
柳うゝさるるまゝの川	東礼
白魚の川をりれり都多	百丈
望は津や隅田の柳乃一葉の	不邊
我ちりも飯ハ合點一の雪うみ	信我

芦枯て嫩よんる月や角田河	秋夕
とくまは先やは戸方乃郊を	汀汐
ふて女の留き例へす川	菴梁
詮筆おなしくしてさのさ川	蛙鳴
菊化ら初も同をやふこを	君唐
海小入る流連してさふす川	二銃
谷よ鳴く今ハ吾妻の初より	彩鳥
雀一追り葉山子小とさ超る	仙里
蛸蝠の外乃石床一まき川	荻雨

け花のさころるんよ都人	午月
春さき一まよ白魚もあやや	貝舎
心ふさあ今月の月此郊を	花笠
青月や角田河系も夏とむの	素人
鐘の聲柳も垂一角田川	雨井 <small>久在</small>
五月心は梅塲の浮葉忘れり	平砂
角田川に若菜我末茂か来立	芭絲
五月色も雪折流ます川	雪言
ちりまきし雪かけを危角田川	素外

後所尚集上

木母寺 梅若塚

木母寺小寺の会ありては月 其角
なほは貝子以て守るを羅の智
梅若くはくも向る性之那 貞佐
名月戸角回河京小款乃在 祇徳
江戸くもをらく事あら然云が 春來
木母寺ふさるはけさ子親 蒼狐
寺も都一人の念佛也 貞知

又きこ 係せたるもの角回川 を泉 水樹
獨も月小味ぬ秋乃乃を云仏 津家

後瀬川

ふもふ小母戸まらく也にるせ川 飛鯨
白魚ハ波の地紋を後瀬川 花城

菴山あり 後所尚集上

菴山ハ波の谷所を流し程 貞川

名所尚集上

新月や氷の下乃いけそ飽 沾漑
菴崎と風のやまをわ啼 衛 寛之

三圍稿新社

夕之マ因氏三圍の神をしくハ 吹角
賑ちやまをのりし因し神の秋 吳羽
喪小因は地り社地のこめりや 貞川
あくア井小神の玉を新涼し 吳仙
永き因や社柴三圍羨めらる 亀齡

西園橋

昔武徳の境にれは名ありとせ
納涼 白魚

襟衣上跡の梅まろりり 杉風
茶をく乃灯もまはれ白魚 春来
五月もや玉橋の股へ清く 可圭
あ玉の曉晴きちととが 春郊
梅後乃下総へけけしれが 菊人
價ありあ玉の歌乃あ庭ひ 沾涼
あ玉の廣さや更の朝ほしけ 雀歩

西國千人ハ後玉乃大さきみ 赤芳
 眼小涼一け思ふくらのまき茶 赤亮
 傳まえて江戶北邊や花火子 即茶
 涼さの價何千あ玉をー 西外
 中辭り棒はきさより修幼涼 赤外

。河洲眺望の荒波

暁の待くをふく山やを念佛 尺角
 度去ふ先むくさ紀の荒波山 大坂 浪々

四季よふふ思くなりのむらけか 古 紙徳
 を枯や河なわたりつくを山 祇徳
 一秋庭のさ荒波やほくくま鹿 蛙鳴
 木うしや不二とて言きほを山 赤外

浅州 紙海苔

草紙や浅州川おせー 伊後 言友
 親きのをい汐後やおほくを 橋川
 多車 鶴鳴 たりはる我あ 久良 玉圃

新編 雑記

淺草寺 親世音 五倍子 揚枝

石の抱り執やありけむ今紫衣 貞角
あはれとんよ海きよ京市福遊 貞依
浅草やけ奥山ハ人乃ま云 鳳巻
春ふくむ一もめ兼川揚枝廊 弗外

久米平内像 日境ゆきま

去なごう辰と次より夏此月 旧室

姥の他 妙と院地内あり

乱道深の月も冷し 姥の他 貞知
侍の横やうけら 姥のうけ 水樹

○待乳山 後に玉二回名を

頼山也きけ禪もつた教杜宇 貞角
世紙君ハ飯小毒なり 待乳山 祇空
名月やげ夕字紙すけら山 春郊
夕すくしりる雨後のまも山 五泉

名所句集止

〇三

新吉原集上

春の雨や草木不候く待乳山 紀亮
夕声の鐘聲也ま川ち山 甚小

浅茅の原

破味暗りて浅茅の原不世洞世心 雲裡
踏ゆん浅茅の原乃神のま云 呉仙
虫物やしちるも浅茅の原に 五泉

志先稲荷社 田楽

志先小一劫多かなくほくおん 荻松
志先や江戸のまの道の川社 貞川
おくれ一の世言ひや神のま系を 五泉
回樂り空扇のまのま交那示 地田

新吉原 五丁町と云 山を豆腐

京所の猫をひらり揚屋所 貝角
たぐ飛より京せくまをけ 氷花
万燈や梅の中一のまのま 荻松

新吉原集上

〇六

よききりや吉原更て花もと 業水
揚ぬあそく大つと出てけさの秋 橋川
ゆき系れ哀れや文く啼蛙 泣涼
見ろ人のひとり灯籠や五丁町 池亮
夏京も何玉にあれと申の町 信我
又そのよればけより一系乃父様 素外

正燈寺 紅葉

男女のあまこ打交り酒を戯るとして

せ碎と鬼のこころわらわが 沾哉

千代 川魚まね市あり

朝くのまお乃赤らやお伝餅 素外

伊系のみ 昔井ありより今八流の名とす

ほくもた流連のころは系の水 春来
牛の雷のるはあそくははこみ 平妙
虫れき乃るるけりみや茶菜のみ 室言

高き山にて底とさくく山系の水 角麻
茂みとる細谷川の山系乃ち 吟松

神田明神社

神田の川ととも川穂のかきり葉 榊川
憾ふり神田の神の地見や 呉龍
茅しや芝蔭村乃神のま 乙雄

湯宮天神社

梅さく下下谷の東風吹く山 龜齡
いさく小汗ハ湯宮の男坂 一巴

東上叡山

寛小寺 上野 五宮 五の森

花乃山乃やいりく東叡山 加友
芝の雲上野、榊咲小なり 一換
松杉のとせとわしを海まが 言光
うさしなの花は得るると下谷の所 米伴
兼小籠の朝夕静 之上野山 春郊

夕暮戸中鳥小く紀よ下路一了り 梅壽
 当春也雪の上冊く山さうく 吳夕
 さくく花小風紙いとふを屏風坂 吳仙
 雪やよ下路く岩乃は清水に 雅郊
 佳人も心幕をぬくかの岡のま 祇叶
 花や酒もどとそ所のよせ山 常梅
 人老もさうよのまや上野山 如鏡
 花ハ八重と清らなる東と敷山 崔蔚
 相傳よ下路ハ京乃白ひくぬ 君香

後やうにそを道も花の幕 糸外

西大師 意よ意眼のま方ぬこ

人よ致ぬ道り大師の寺梅 嘉治

不惑の池 藤物津の池在 中嶋に在哉天社あり、

糸小糸の所 鱈や池乃蓮 梅壽
 陽の影や小を葉まうけは蓮の奥 一巴
 風も一葉葉は蓮の上路山 何外

蓮の花や白地(びやくち)の(は)つ(り)の(ま)い 平砂
不(ふ)思(し)や(は)卯(う)月(げつ)の(は)蓮(れん)乃(の)浮(う)出(だ)せ 高(たか)芝(しば)
旭(あ)ろ(ろ)久(く)く(く)涼(りやう)れ(る)乃(の)蓮(れん)入(い)る(る)蓮(れん) 二(に)新(あらた)新(あらた)
草(くさ)不(ふ)明(めい)て(は)路(ぢ)へ(は)結(むす)と(は)白(しろ)い(い)花(はな) 午(う)月(げつ)
咲(さ)け(る)蓮(れん)の(の)心(こゝろ)い(い)ま(ま)ら(ら)陽(ひ)の(の)山(やま) 陽(ひ)茶(ぢや)
ち(ち)の(の)ま(ま)は(は)蓮(れん)枯(か)果(は)て(は)登(のぼ)る(る)奥(おく)の(の)山(やま) 釜(かま)梁(ら)

。向(むか)ひの(の)圖(ず)

隔(へだ)ち(は)ら(は)紙(し)向(むか)ひの(の)窓(まど)の(の)花(はな)見(み)え(る)の(の)形(かたち) 平(へい)砂(さ)

月(つき)の(の)花(はな)亦(また)向(むか)ひの(の)圖(ず)や(は)け(け)さ(さ)の(の)空(そら) ト(と)人(ひと)

月(つき)の(の)空(そら)

太(たい)神(かみ)宮(みや) 七(なな)五(ご)投(たう)

お(お)の(の)ろ(ろ)と(と)神(かみ)や(は)夕(ゆふ)日(ひ)の(の)里(さと)の(の)雲(ぐも) 不(ふ)釜(かま)
暑(あつ)き(き)足(あ)は(は)れ(る)さ(さ)し(して)お(お)も(も)人(ひと)神(かみ)の(の)思(おも)い 平(へい)砂(さ)
さ(さ)さ(さ)と(と)一(いち)見(み)渡(わた)す(す)方(かた)は(は)紙(し)く(く)し(して)ろ 在(あ)ら(る)舟(ふね)
えま

同(どう)人(ひと)丸(まる)社(しゃ)

ち(ち)の(の)新(あらた)か(か)ら(ら)御(ご)ま(ま)結(むす)乃(の)神(かみ)ま(ま)ま(ま) 釜(かま)搦(な)ぶ

春郊集

見たりしと隠れも申の久き春郊
伊予の久き春郊の春 吳仙

飛鳥山 梅

秋さうらわしき春郊の春
春郊の梅の春 梅壽
梅と見む花の春 枝壽
春郊の梅の春 不登
春郊の梅の春 露石

五子福寿社

五子の春 雀舟
春郊の梅の春 春郊

飛鳥山

飛鳥山の春 雀舟

飛鳥山 春郊

春郊集

めづれや條井のりくらの古抄戸 春郊
春の日に此價のりくら庭はり 雀子
いらくふまよと條井のりくらが 仙風

四ツ谷 兼 草花 蕃椒

四十めえ四ツ谷紙屋のりくらの雲 鼠雲
秋風ふゆつ谷のりくらやまのりくら 山夕

戸田川 飯 楊州

まゝ魚の戸田のりくらのりくら 子英

氷川神社 武州一の宮也大まに氷川

月あゝ十八所乃氷川の奥 素云

熊谷寺 敦聖碑

蒼き蓮はそまは法法のりくら 不角
ちりけしや昔の歌今も又、

○小湊の池

小湊の池の尾さびの池の月 軽舟

○美芳跡の里

そのむの居 川哉平修地

田植めやいひのうらさちゆく君さる 雪言

秩父山

札示鏡言

とくさる所ふ先ふ山ちぬ山 宗瑞

○武蔵野跡 述多

武蔵野跡の雪あけを 徳え

ち〜〜 武蔵野跡の心菊の酒 舌れ

むさ〜 武蔵野跡の女は〜 三風

武蔵野跡の電のうけ 又角

源〜 武蔵野跡の古

にま〜 武蔵野跡の秋色

むさ〜 武蔵野跡の古 沾洲

跡の穴小窓も 沾涼

或も御系そのおしよきもこの如
 心さしゆく言も又より虫の声
 若柳やむしきし世の心影
 武蔵の末の地と御保しき
 心さしゆく入日のなみ中津
 或も御系そのおしよきもこの如
 心さしゆく言も又より虫の声
 若柳やむしきし世の心影
 武蔵の末の地と御保しき
 心さしゆく入日のなみ中津
 或も御系そのおしよきもこの如
 心さしゆく言も又より虫の声
 若柳やむしきし世の心影
 武蔵の末の地と御保しき
 心さしゆく入日のなみ中津

貞佐

新波

梅郊

春郊

梅奇

梁山

龍郊

花城

或も御系そのおしよきもこの如
 心さしゆく言も又より虫の声
 若柳やむしきし世の心影
 武蔵の末の地と御保しき
 心さしゆく入日のなみ中津
 或も御系そのおしよきもこの如
 心さしゆく言も又より虫の声
 若柳やむしきし世の心影
 武蔵の末の地と御保しき
 心さしゆく入日のなみ中津
 或も御系そのおしよきもこの如
 心さしゆく言も又より虫の声
 若柳やむしきし世の心影
 武蔵の末の地と御保しき
 心さしゆく入日のなみ中津

吐風

素人

十教

中外

五陵

洋家

しるしをいかに舟のちし川 松架
 幽水の名をふるふを後町言 露噴
 波をゆりてあまよしきる日の登 ト人
 申し也屋舟を訓し玉の月 素外

。堀金の井

其候小堀のの井乃乃署が 貞盛
 堀のの井乃乃きり吉ももの言 乙雄
 六日乃堀あまのなまを言 角康

。玉川の里

調布 結

結ハ漱ふ一麻石扱乃やん。那 貞依
 玉川や吉をささくは存の言 米仲
 兼水や或花玉川 縁膚 再賀
 高解や玉川ののちねさき 梁山
 玉川のおる環なりしお後の月 鳳登
 玉川や氷の外より玉乃結 素芹
 玉川や月を巻もあし白 花線

玉川の玉やまゝなるらん葉 如竹
 川流し館のほろも玉あや空 秋色
 糸遊おほくあふよ玉の館 急流
 玉川や舟ひさくは館 館 赤外

品川

品川も逢ふ改りし序の夏 貝角
 ら水際たる品川海の雲は日 竜窟
 品川も九品の教や日と宵 寒和

各地の... 映きて

波を舟よらる雲ととある月の月 作舟 鬼火

袖の浦

浦涼し袖のわくくさる帆に帆 午月

は菴禪師之廟 東海寺

ながき松やは菴禪師乃石一ツ 似春
 ちるももらふて雲くさるるが 蓮之

御殿山 橋

いさぎよき 咲橋く 山乃 奥の 何外
さく 花の 漁火の 名を 山 素人
咲 橋く 伝ふ 良き 山の 反は 二龍

月見不動寺

龍泉寺 獨結の所 大
咲花 始 粟 解

いさぎよき 咲橋く 山乃 奥の 何外
さく 花の 漁火の 名を 山 素人
咲 橋く 伝ふ 良き 山の 反は 二龍
月見不動寺 咲花 始 粟 解
いさぎよき 咲橋く 山乃 奥の 何外
さく 花の 漁火の 名を 山 素人
咲 橋く 伝ふ 良き 山の 反は 二龍
月見不動寺 咲花 始 粟 解
いさぎよき 咲橋く 山乃 奥の 何外
さく 花の 漁火の 名を 山 素人
咲 橋く 伝ふ 良き 山の 反は 二龍

海晏寺

古木の楓多し

仲の 月見 庭に 照る 影 海晏寺 二龍

大井村の橋

西光寺をまわすあり

花の 老枝も 枝は 大井お 古 佳徳
畑の や川な 大井お の 古 山夕
うの 大井の 大井 城さ 花お 佳例
あも 何空の 大井 の ささ 佳風

鈴の市林 鈴石八幡の社地あり

大うさ秋乃別道わ鈴の畷 百里

。荒菫田の 夏秋漁み多し

ちりりく小舟この葉や荒菫田 老年

六合渡 赤良菫を

菊うば玉川裾わささし 春来

大師河原 平間寺

朔風や形も少新供多き川ち 和推

折てふ獨結樹の河原葉 桂坊

虫の齒小枕や孔をささし葉が 平砂

雀見 橋修凡

多新や月さるる雀見のは南休め 貞丸

金川越

筆さしてんふい涼 松のふり 悟我

称名寺 日よき葉の紅葉

山姥の祈りなまけをきく楓 曳尾

○ 桐摸

戸塚

稲場乃戸塚は遠く園地が 其角
苔すくや松の戸塚は遠入口 紙空
木の初たり篠倉節のいと 一蝶
野々も水鶴の戸塚泊りさす 柳居

○ 篠倉山 里 星月夜海郷

篠倉の名は披しや杜宇 原松
空亂マ定の亦謂は篠倉 吉 青娥
篠倉の正しはくふ四月が 乾什

鎌倉のつらさよふれ月も
甲水 黒石
 鎌倉の鳥の帽を捨てて
京 田社
 うかば世を鎌倉山と夕ふる
 暮村
 鎌倉の海に花ありし
 魚路
 鎌倉のやうりありし
 雲子
 流るや鎌倉山と夕ふる
 水樹
 鎌倉のやあもす
 後卯の
 宝言

○ 雀の園ハ幡宮

雲井の碑 浪書

何代の玉まよふ
 乃窠の
 雲
 其幹や浪書か
 ちぬ千枝の秋
 魚路
 涼さや旗の流
 道もまよふ下
 涼帝
 春風や十は
 窠の園
 行以
 伊代舞月の
 ちはるの
 素振
 幾事もあ
 ちの窠
 操舟
 松千照
 旭や窠の
 園乃まよ
 玉圃

雪の下

鎌倉ハ夏さくきり一宵の下 乙由
宿とくおのつら花の香れ下 君香

壇ろく

法末唯むりハ雛の壇ろく 深家

速長寺

昆柏の大樹あり 洒掃叢密

志川ろく寺ハ夏書の筆此とる 涼徳
下宮ふ世の若もあやし速長寺 亀仙

あそ枯や不習も古き速長寺 素外

松う園

赤松寺 尼寺

鐘乃く又見まく何一松う畧 葉院

金浦迄

利國後父も高とせぬなる 一換
美あふ強上多さよ初松魚 詔波
白銀の揚も西東とる世末かか 涼徳

谷

谷々々やばや急あふ持扇
 梅翁但る 風也憂風此さうこの梅う谷
 回山 自し又みも谷ありし梅の谷
 徳之 旅ううくはふや月んうや川を
 月成 かまううマ梧桐紫嵐て霧う谷
 蛙鳴 山岩の上は葉内ーてくこの谷
 素外

滑川

寺在在善法と云せり示

堂火八百の女のめと滑川
 梅翁 少屋の今もながめやうつむり
 春来 錢月やまお一時のながる川
 素外

大佛

堂やなく信仏し

谷白八南以得るを仏頂珠
 嵐雪

光明寺

鎌倉や孫や十女の星月奴
 沾涼

寄小あふしおあふれまの辰 号大

稲俣川

有くふ月も突の名稲俣川 花城

由井ヶ濱

期宵勢小一のちと結や波れとる 只角

片瀬

幾早寺 日蓮上人法窟の場示し

意方の海風いつらちや片瀬川 大坂 玖也
首のたハ稲妻あのをさる世討の 木節

。江の山宮

金龜山真光寺

江の島や旦那流うくは干貝 只角
江の島や月ふは川勢の尻 万立
名月や波の動きも今龜山 龜仙
接かちや蛇の動きも今龜山 文足
女体あをますをせとて流れ真光寺 系外

岩山崖 目録

白の雪乃波岩戸此煉ちこ 亀文

魚板石 目録

伸能打よきも波や魚板石 宿帝
急よびふや翅板石ふ掃除波 午月

兎の洞 目録

今とてし海ねむ希り世思う洞 了雲

小栗塚 表にあり

己饅付 屋系のさきと連 赤外

○雨降山石寺社

三月日やまの神山の納き 平砂

高砂 スナ

砂の 加ふむせふいさうに 春来

と見うるを 山宿と見うる 宿何系なり

とく御前今ハ流し石の肌 鬼也

よい男アてまふと見しと見うる 貞佐

千里あしむる半く心やけと見うる 曳尾

ぬりまふと見うる心流の木の枝 十教

大磯

高帆行帆今ふまふと宿の鐘聲 春来

鳴るは 菴ニ西行亦持のおま

鳴るきくちとわわ何よあこる 三石

筑の町のほふちくく鳴るは 蒼狐

つるまふと見うるまふ秋乃さる 涼師

足りよの鳴るはや秋もさる 素水

杖朽に鳴るはの枝折るふ 曳尾

鞠子川 河匂川に

鞠子川 又いりり 影や深き
ありしと 時ゆき 鞠子たき
氷とけを 澄入さるる 川
苗代ふ 次りけ 行や 河匂川
宗祇 由古 宣安 故道

曾我中村

曾我兄弟の位一ふ

なまはるい いとく ちかき 我里 泉か

小田原

外布山 乃のき 山は ちかき 梅 葉水

長真山

降泰寺

とるん けく ちかき ちかき 轉じ 春米

甲雲寺

宗祇墓

甲雲寺 名は けく ちかき 甲雲 山
寺御も 宗祇の 故は 乃 匂川 園女

時をわたりては世のあはれ 祇空
まをかりての世ふらるるまじし 平海

温泉

七湯ありて 地獄 其の湯を

己さく穢穢不似しるまじりせ 山雲
よ城ハ何山唯乃湯ふ條む 法蓮
湯の山やと法きり文衣 法例
甲斐又の母うゝ妻社守 貞佐
山中小使ぬ日おや湯場の昔 信我

あいらし

半のこえあふけり名ありとせ

おまじけあいらし 隆や夏木立 海百

みやま

下野ニ田名の名ふあり

ほしきほ又子祝ふこみ山 宗風
たこもわぬまの山り二子山 首良
稲妻のこみかちりや二子山 柳居
あし今ふも解く新よこ山 不祥

雪の二子の峰 七ふらふら
ほらほらと一ふらふらふら
色染

○お根山 神代杉 挽お細工 山椒臭

赤松のふらふらのふらふら
約半や岩おまきくお根山
霏哉とお根のふらふら
雪を飛ばかふらふら
鬼費
白南
津安
素外

○湖 江戸の海に 磯堀と賽の河原と云はふらふら
死人お運ぶる例まーとせ

お地蔵乃高き啼や小根街、
岸や影後ふらふら二子の山
掘りやまきくお根街 石の磯
岩の目や一死死く岸の海
鬼費
涼帝
色染
素外

名所集 目録

よき地の名所やまきくお根街 涼帝

箱所集

念力の花咲きせむの若草 曳尾

柳園所

さきも声はくしの根 貞徳

。足柄山

足つゝ向ふ勝つゝ杜宇 了因

○伊豆

。伊豆言根 伊豆のせ山 柳石

石切や伊豆の山の新花多 我越

松の枝の劇 佐原の若草と池一水

かきぬかけしねれ侍もや云録 二宗風

松雲

名所句集上

四〇

杉崎七夏 此以せる木の青も二 三風

○之嶋社 他 紺纒多し

中早 振苔のせしし 神饌 鬼賣

佇豆之湯かろい 竜の小煙と吹く 珠来

千両梅 強所へふ枝とも 極く昔千両とて 買ひしと也

ふあいの水た境かじや 綿の花 十敷

八丈山寺 行袖

八丈と佇豆の内なるが ありふ 宗瑞

○ 強河

強河 強 糸竹細上 準備 越る 葉のよもいし 地

強河 花や花 橘も糸の白し 芭蕉

強河 花の糸に 麻さて 社宇 柳 結

まを眼めりうー草久保乃葉摘笠 己橋
後ゆほや別ほくーの喜る鶴 津安

。安土山 二五安土山 八葉峰

え胡のふくみのふせし安土の山 宗鑑
先の月より一のふや不二を 貞室
羽さくして三百先思のふをの雲 紙舟
烟みも煉けそ白ー安土北雲 徳之
草の草やあふ秋の山山法山 露信

宿くハホ二のま中を柳のま 信徳
不をの山沙まーもなまはめが 湖春
眼かろり付や妹又家平日第一 芭蕉
陰尾や尻と陰と雪れ不を 潤和
少く川はると秋の度かふ不二の山 鬼貫
いつもちのーまの降る第一此山 山夕
白牡丹不をの林藤とあまゝ色 系風
涼ーさやはめて不二ふしる向
林さー安土まーと秋のさる

不冬少添之三月七日八日

京 信徳

百反初々ぬきやとろくと不冬

東照

そあつ消て富立紙線小雪肥る

貞角

不冬紙つぬ被入もあしむの山

高尾 嵐雪

富立紙つぬの摺おせんらふの月

吉 支考

夕冬紙同とて新ふらうと花燈

浩暲

ふさしてふさねけもあし秋のふ

不角

ちの海や不冬紙世家れを借し

信房 乙由

よしおふ咲はるる整の雪のこ

富立紙つぬの重さある時りが
 梅海
 暲ま〜不冬紙〜をこ又衣
 貞依
 秋のふら不冬といろくふさるる
 ト尺
 借仏不冬の紙紙ぬ〜らり
 柳居
 富立白〜雪ま〜のふ斗
 心紙
 北風の不冬やさ〜の程
 米伴
 不冬乃を重〜消を梅を
 涼師
 月〜不冬紙〜の目と
 富立の雪〜か〜後〜花
 梅郊

初まやまゆく富士小者分かつ
 ちる葉と若菜大目小者の山幸
 かやうと火の不ニ小ニ由くや夕景を
 宿も素小眠れはくく人の口若く
 此よりよき多うしすとも不ニたの雪カケ
 いろややうあまのるも色あれかきり
 不ニおのるさニらるるを半月の雲
 本かしやとハ落のぬ不ニの中
 不ニらんせきく日ハ入るる六月
 龜文
 江香
 龜仙
 来道
 千代花
 平砂
 海百
 素胡
 室言

めくろふ今ふ時ゆしんり不ニの裾
 未ししや不ニ小ハ団子の位 桐
 早乙女やふぶこの裾ゆき麻子結
 行と此者那の月マ不ニれ空
 一不ニ家ま身とて花後向の産花子
 去くるやけらくの不ニのゆ未
 かなりのまやわさ一山もふまかき
 四方ハ花むえむと欲す不ニのき
 あし林 中との且れ不ニたの山、
 笠松
 津安
 枕袋
 宿希
 玉圃
 秋方
 素外

足高山 あし高山

初雪をちかむるのころらりり 平砂

○浮い香の系

浮い香の系 うきかぎのけい 鬼貫

○たぬ士川

たぬ士川 たぬしがわ さふ秋の夜 鬼貫

○団子小浦

団子のころに打ちよふ二の巻 紙舟
松原や藤陰と流る水は不二 三つ風
不登の影一おふ団子のま団が 幸 文果
団子の浦も打曉てるゆかり 雲霞

○三保ヶ崎 浦松原

不登を思ふ風う時ふ小之穂の海 似松云
袢子綾る団ころふや三保ヶ崎 曲草

不云此三穂之法示りし社亭
松の末云え端しはも三保の末
言乃秋海はも保めも人かま
素外

柳居

春郊

三穂社

羽衣松

庭なりし粟や三保志之立所
松の林中たるむきさ色権所
松もくまうるは三穂乃まな
羽衣松乃こまうはさのばき
柳居
曲筆
三穂
不言

○清見深

冥 清見寺 青葉

虫千やせめそ奥阿の清見寺
はく鷗のつらも淋 清見深
世や海走月不身しそ清見寺
暁
春の風や三保の松系法を
秋の目や浪不深しそ三穂の道

肅山

尺牘

挂坊

泉堂

江尻

嶺さやけをぬく三保の千三敷 其南

吐月峰

ほくお尻一帯吐や露れ月 其英

○宇都山

○川の谷。昔の細を下及尻 十窓子

百夏池又小窓乃細及もぢりる危 一狭
うづ枯く馬心候ふ川の山 其南

いづか一也是代家費おほきき川の山、
胡を後く指おとささるう川の山 蕭山
十窓子も小粒よ半也秋乃風 徐六
昔者母影もはかりて言一川の山、
年去のて牛小糸おたり昔の道、本常
川の山し川の山汗拭い 三島
おを枯ハ昔もあもめをた川の山 ト宅
昔の林一窓子の川粒の連窓子 夕依
初もや昔の細及も係との 其磯

宜麻呂之船の山並れ雨は花か花か 希因
 のしるべき言て押音の籠りの山 公紙
 秋の目や水が船はささ川の山 龜文
 五月かへり夏のおもむきさうの山 好我
 旅かゝる船小籠の舟ちうり川の山 舟外
 ひろしむらんふこうりくはの山 吾忘
 去なめし月ふおろしきさの山 不言
 昔の結こよく長別とておれし 素外

田中

宿とらて後や田中の峰乃月 平砂

瀬戸 深版

さる合らや西刀の名物朽葉とこ 蝶子
 石の帯や秋の深版のいそぬ色 吳胡

○遠江

山越の旧名也

○大井川

瀨の腰小瀬をきくし大井川 鬼費
 馬をハ知りし時雨の大井川 芭蕉
 五月の舟のきし吹らるる大井川 一、
 大井川の舟の縁織る柳 一 沾徳
 大井川いさめてる舟の縁織 素巻
 いさふ縁織中丁殿の大井川 其南

目撃する舟もあきの大井川 其考
 霧のぬけ舟も雪の大井川 柳隣
 干しひて舟も啼世大井川 荻狐
 夕暮や舟も舟も舟も大井川 風亭
 秋の舟の舟も舟も大井川 素野
 五月の舟も舟も舟も大井川 海百
 とお目も舟も舟も舟も大井川 谷梁
 秋の舟も舟も舟も舟も大井川 津安
 舟も舟も舟も舟も舟も大井川 素外

。菊川 里。

菊川や朝日分根の葉散葉を 素云

。佐夜の中山

。さきの中山に 佐夜 夜啼石

あれもいふ佐夜の中山の言 梅翁

わふともいふ秋の日のあつたよれ山 鬼貫

道後よもいふ掃也佐夜の中 貞角

始包山の世も一葉もあま佐夜 深井

史跡を遠きあわの山へ 寛和

目さるるも汗振あふるもいふ 笠原

西坂 藤原

令りこころいふ勝也ほろもい 系風

秋葉路

神宮や身付たて切松の言 松翁

合相もそとあふたうも秋葉路 貞角

四十八歌あて

瀬の程もぬの香け香露の時も 尺牘
山風ももろも打拂きんふ川 岩窟
鹿ももろも打拂きんふ川 松の

日
味方うら系

後の月味方うら系一月外 尺牘
かると味せし味方うら系のぬふり 史邦
まを後めとら味方うら系は時雨外 露水

他因宿

陽谷親子うら系

秋はさる老母も遊也も穢と又 鬼費
父魚ハ胡顔のぬき味方うら系 巻原

釘ヶ浦

一丁ヶ浦雲引列きて釘ヶ浦 ぬ英

濱谷の橋

ととめて濱谷の橋ハ秋と 鬼費

阿の月も昔淡名も橋の月 客費
傍右のこゝろふゆきさの里の橋 けり

○之河

吉田 橋

勢多^{せた}寺^{てら} へ 田^の色^をれ^は二^階の^う 鬼^の費^り

鳳来寺

志^の方^をと^して^六本^松や^旭の^那 乙^中

赤坂

夏の月^は仲^の夜^はあ^らく^赤坂^を 芭^蕉

。衣^の七^里

ふ^りく^し衣^の重^や垣^の紫^を 操^舟

矢矧の橋。里。川。浦

一、折り二百八間ほくおん 九室

八橋山をさす

杜若の池の地
八橋の池の底まじりあり

ひりー男骨を折勾のうき川はこ
きり川をさすはるまき
八橋も田をのりめりて帰性
杜若行てほくいぬ道ぬる

空存

系凡

許六

不蘭

はるのまじりぬ給やうきつを

各十石 世有

橋ろくちうも折るさうし

涼代衣

谷千之さき給りりかきし

乙姫

とらま居てハミ給やほりつを

笠琳

什物の手をそのくぬ杜若

赤兎

蕨の花画りアし橋に元も色

声波

折事紙割禁のれあり

池も同落すしり杜若

素外

○尾張

鳴海 浦。里音松徒染

宵宵色をき方の糸を小鳴海深 尺角
夏糸色を返し日たりく河 大津 乙刻
初秋色をさしれを父ふ成海深 曲菴
縁平は日初ハ涼し仲の望 赤外

心之寺 觀音 龍後寺

木林一の心よりさるる時 龍外 各所句集 伊勢川
心之色は大徳の配符 杜外 二世 赤示
心之く村のくやるる羽殿外 平外

○星出寄

星出寄乃 雲霞乃よも 鳴海 芭蕉
涼す小糸星出寄くく 看信外 系 惟然
涼床く星出寄くく 地 枕 吉 舎流
星出寄のまき回小糸も 波末も 吉 道肝

名所全集上

○ 呼はきしの原。さる月の原も

巨魁くくを呼はきし原とす 名所 涼苑

○ ねまきし里

帷子もおきし此里の遠慮計 明海 釣臺

伏りのお堂乃里やつゆ原 絶景

衣うひきくお寒の里向り 花城

○ 勢田宮

御所廢の時

麻石並に鏡も清くし雪の花 芭蕉

文くく祢宜の齋や松乃月 其角

香のたきや勢田宮勇心はさ月 龜翁

○ 三途川姥半

お妙や歌くく乃姥さくく 蓮之

依屋

名所全集上

〇 是

みつねの浦 人のつらさを伝ふ白 芭蕉

○志麻子

いづこに寄。いづこに寄。葉をうらむ。

寄るついで身を結ぶつらき 芭蕉
あはれおのづからいづこに寄 嵐雪

戸羽目山

眺む

遠き海ぬ八市の不なる根浦の雲 三好風

は浦みそきち中細波指切綴とそ

楫の江乃名残いよ心懸け

○錦の浦

出雲二回名を

層々文もや隙の浦乃波の紋 俊中 芭蕉

○伊勢

伊勢方言

曆録 青海苔 伊き ちき

角ふ字や伊勢は神岡のち唐 其角

いせは秋の目割しぬ糸と喜声 尺抄

世の秋や女は糸も伊勢の 龜箱

東名

燒蛤

蛤のやうにして啼く保とき 其角

東名ふいせ平良家のくけ部 山川

海り合ふ早も七里に綱ふけ 意元

星河

新少川と星河の水あふ 乙中

杖はき坂

歩りなす杖つき坂は落る外 芭蕉

不斷梅 白子寺本村観音寺にあり

不取の意ふさまして從女梅吉 貞佐

程も候不取梅のかさ吉 常仙

海生ありけれ

不取ふハ一月をさき梅のふ 乙雄

津 紙たをこ入

海船の天ふハ三つし津のささ 貞佐

明臨 明皇の葉を 後めの葉を氏

明皇をとおもひけ葉飛堂梅 雪梅

筆提てゆめやめめく雄の声 水樹

伊勢の神。天照神 百枝松・百枝杉・あま杉
千枝杉 おまき名

内宮 宇治朝日宮 外宮 山田

御蔭産乃床玲々也伴勢梅 梅翁

何の木れ花ともさくは白ひか 芭蕉

太くや小判 並へて葉れ花 貞角

昔昔も初光乃女雲のまゝに
公一八松尾ささのりなま
所松尾や玉帯の系乃松尾
許六 嵐雪 津波

○神路山

由乃 又あまのりささのり

侍し皆翁冠の初さ 神路山 貞佐
旅人の帷子ささのり 神路山 乙姫
花白くささのり 神路山 仙風
服さくささのり 神路山 素外

○五十鈴川

○少堂川 内宮

松尾ささのり 五十鈴川 沾佐

信尾ささのり 五十鈴川 沾佐

才の秋もささのり 神路山 貞南

おまふのり 五百枝の初さ 五十鈴川 乙由

ゆり 五十鈴川 貞太

雨宮

いづあひてんやこれのつま 古 志

子良阪

洗子あは子れ一りく床し梅おし 芭蕉

高倉乃岩窟

夫の岩戸も云

山岩戸ともたき明る神楽 ソセ 望一

翠 大津 の入岩戸乃奥や松の花 尚白

香も涼 浩玉の神酒と山 久亮 系友

皇麻呂 あし ぬま 文 神樂月 系外

吉市

吉市此吉の影せぬ海 の 邦 家老

桐の山

い花き あ ち ま 後乃おの山 系 去来

舟後 と あ あ ち あ 桐乃山 柳居

名所河集社

菩提山 神恩寺

ちとせ北山南無何弥陀佛と名付 守武
け山のかきり さきよ跡老松 芭蕉
兼けく依坊との心ねろし 芦英

西行 谷 神文寺 尾古

に遠く不ふ城刀色危雪輝 乙由
は寺比古千見とるく子 律
系り海なる罷さなうて清水外 涼徳

報ヶ山 嶽 隠波 同名の名ふり

ほくおは啼も山も事表 乙由
万山和や報ヶ岳 沢打たつ免
山の名沢抱く啼マらん 希因

朝熊ヶ岳 金剛勝寺 万金丹

今く月一里月あせのわ化朝熊山 乙武
ほくきん啼ぬお白し朝熊山 支考

風切ふららほむ也あまも山 横儿

富士山の伝説

岳のりまの侍山家伊勢後河 宗風

眺めやふ富女や結地乃一二女 乙由

不二山にて去程のまき示れり外 園女

鶯啼石

け石の内せし赤しき、杖乃るる 乙由

人まのひ石も痛きやうん鳥 平砂

河女む石受けマ法園の百子也 龜言

まきの目やうくひも山鶯啼石 花子

鼎石

如今燗るはしき鼎石 丸室

首の石

せかきらの神もあつてははら石 乙由

時鐘の松

ニんくくくあはれや遠く門の松 乙由
しるくくあはれふしるく松乃く 希周
松くれて浦の時鐘やふかき

二見ヶ浦

但る換て二見名

岩のふ神風きくあはれき 貞角
燕乃尾や吹くけこ二見写 柳若
初まあふく二見のこころかこ 千代

月ひりくくく新ハ二見の岩乃外 葵洲

御塩殿

彦村の者

上りくくく草十屋家後く物昔の 園女

阿漕ヶ浦

阿漕塚

足後く阿漕の枝乃さく貝 宗風
めくましく阿漕くく啼鳥 涼菖
打鳥のう原屋もさく浪の孫 乙由

細きぬ我も阿漕やんまゝみ 希因
月と白く流るるなれハ師を引 蓬谷
細引ぬ阿漕も思ふは後の月 平砂

。麻生の浦 。漢・麻生のくまの架・梅麻

おのの浦や比勢もなりのあふ 志節

。小路の漢 。五月十日昔以干き

日定らゝおごるぬ干のひらき物 乙由

新海そ月の漢村乃以干、

石茶師

玉室まゝ茶師のあは海初後 鬼賢

。舞

月とおは流るるくし雲の者 乙由

。於鹿山。於康川 八十米川也

龍馬山なる所の擢るる所也 云奴
 一とせ乃能と云ふは龍馬川 鬼費
 ともなふもまともな父立龍馬山 史邦
 編つるもは世にあらざる龍馬山 越人
 川のきく橋の置きたる所の山 乙由
 三つふ龍馬山ありけり所の山 葵洲
 公ふまの置きたる龍馬山なる所の山 素芹
 稲妻あり龍馬川に龍馬山 狹徳
 一つは龍馬山ありけり所の山 風舎
 白鳥や龍乃お明きく山 五瓊

田村川

光陰のきりきりもや田村川 乙由
 能も今もそのきりきりもや田村河 仙里

○伊賀

花垣庄

一里ハ路花有流子線りや 芭蕉

新大佛寺回法

阿波庄

木六下陽をさし石のこ 芭蕉

風の森

未詳庄

さくやも障あしぬ津風乃夢 柳菴

○ 近江

○ 湖。香の海 琵琶湖

水魚 江銚 係五市軒

息をきり啼け香の海はさくら 貞室

鶯の鶯木は系乃仲の草摺也 系風

空乃をき花吹入れて啼の海 芭蕉

湖のあり鶯の心ささ月一由 去来

目やあまき帯や湖のあまき帯 大州

初をや波も停帆の風を因^{を江}中那
 鯨もや比るはるまの雪京色^{勇原} 栗由
 湖志鏡あきし比る此雪 舟
 子親帆けふ出るを月枝花
 湖乃字もさや鏡の山おろし 菘粉
 新原し湖も水も四子比若葉時 春郊
 色江の也比るをれくの八きあ 法原
 湖乃水の限りも比る良の雪 比家
 雪雪の月月八京の月玉也 月成

浮の花は比る良のほあれを月枝花 平砂
 雪の雪もや秋ハ鏡乃其比若葉 吐月
 湖乃新の雪もさやあきれ 西外
 三月ハ定老も雪乃水の鏡也湖 西外
 案此あの一もあに三井也鏡 不言
 稲妻れ法やされり花鏡乃湖 新古
 湖やまもあくもあに日枝の雪 新古

○ 竹生と雪の都久支比麻屋山岩金山太神宮寺

井深く波の底おも峰のよき 三子風
こぼる月の華咲く井中を 去来
水音のひらめくかき竹生鳥 乙由
乃奇はるまふふ 井中を 平砂

○浅妻 舟

浅妻の橋ふきや想る葉 栗水

○入日ヶ岡

海よりや比るく入日ヶ岡のゆき 栗堂

横田川

川越や蜜お別を横田川 明棠

石部

比るやうき人きりし石部山 大津 智月
さ月ゆる石部の山に元氣 松風

名所句集止

のり

○之上山 百足山 池のわたり

今も其後己のむら此百足山 不角

之上かき遊ひふらや時か雪 柳居

日枝ハ花安リと江の不二思 赤外

○池沼乃玉水 玉川 萩

玉のせもさく悠々輪の回地合五 不角

玉川也之秋城波平月八日 春郊

懶村

懶村とては茶成浦まの標の砂 辰南

○鏡山

ほろおき常かちうと鏡山 支考

かきこころのふおる又立雲 不角

初日外光るのちかくみ山 一晶

吹花の息ふそとや鏡山 貞佐

麦時ふあそ女あしはうと山 乙由

一息をとりりや雪はかゝる山 業水
夕暮方乃息あうか道鏡山 龜文
ホくしやや雪うらとわきめく鏡山 葵洲
中し此碑のまほあけり了陰やん 冬英

不吞川

昔は母毒と流せし水ととも

てんやと流る神は命は惜しき 壽南
とくだこの茂アとくはし春川 不角

○ 不吞川 大上山氏

空を飛り 空を飛せり女の床は山 芭蕉
必も花を床は山後や片猿籠 三子同
花の情不帰りや床の心さう 困常

多々丸大石岩

二宮まご 此布厨

道徳よまふか美はま結の字外 尚白

摺針法

摺針社 摺針法を全候

針葉の夏なほのさか 不角

醒ヶ井

日本武尊 伊弉諾石 加志麻

醒ヶ井ふとら 大崎なる石 乙由

醒ヶ井の草もはら 伊弉諾もせは

醒ヶ井ふとら 伊弉諾もせは 活我

淡子の水

法大師の茶乃ありとのを
産る子れはと利とを

父まわ流れくまは淡小僧 不角

茶のいりやまのなす 一ツはひきき 寿角

首白の春強 なる花を産 辰角

伊吹山

伊吹山 霧の山 苞莖

伊吹山 霧の山 苞莖

伊吹山 霧の山 苞莖

伊吹山 霧の山 苞莖

伊吹山 霧の山 苞莖

きしつあめの二日もさし 伊吹山 湯袋

○飛麻牟社 には。沼。跡

川ききや海千女の夢を却記 魚得
つとるやふれ海万石の歌 彩香

○草津 嬉る娘 鞭 矢倉延させ

楽々く嬉るる娘ささき菜 鬼費
あもるひり 嬉るるまれば 尚白

眼う解姥ハさくらのちとる危 桐雨
詠人さしき狂妻人嬉る候 乙由
振袖の嬉るあつらふる白よき 辰南

○矢倉の渡

帆も人もききし矢倉の柳花 春郊
約秋や月も矢倉の房より 素外

○粥田 寺橋 唐橋 ささの橋 帆

我約の雪あゝめん梅池雪
 湖春
 夕日集院れぬおちぬ園の橋
 芭蕉
 ぬ園の秋移歌きし陵山
 愚賛
 友の日以半しぬ園をあること
 不角
 亦うしむぬ園乃り橋のきも温
 貝角
 夏れ是あらしの梅々ぬ園慢
 不角
 寝さすぬ園の仲言やき
 貞依
 暖やぬ田一筋乃るの雪
 紫堂
 曇みも休む息ありぬ園の橋
 梅郊

一すもはふてせぬ園の夕日新
 赤角
 燕の啄むぬ園れたのハコ
 百重
 貝ぬ田遠さつりや旅の夕幼涼
 玉圃
 湖志流れて凄しぬ園の秋
 素外
 けいふ系師堂
 砥石の女名
 隣と見て泣くも歳と系師堂
 不角

螢い谷

此所八四消垂を等谷 石角

田上山

夕月や田上りせする旅々ろ 吉来

石山 寺

石山の石の形や秋は月 鬼貫
秋のそまろ山寺乃澄の側 嵐雪
石山(系)ハトモも曉月 風谷

石山の石も碑けはあま 乙由
石山乃片彼見を夏は月 柳居
縮つるや石山寺の石乃中
石山の石紋もあまの月 希周
石山や唐路小あまの月 龜齡
石山やあまの千の原は 笠秋
枯あまの石や石の石を 素云
花あまの石山の月はあま 素外

名所集上

。栗津。森。跡。系。里。義仲寺

亦曾坊へ矢を指しけり
早稲喰糍粥乃以てええおと
一繩より人々栗津のまらうふ
信誠 素云 吟松

。打七の候

嶽くや雪をまつもを烟
もらめて御縁し月と月
史邦 公祇

勝所

龍神のまき葉小はくを城の伝
花も波新の下さ雪の海
秋風もあゝは陸も橋も水
正秀 桐雨 秋斗

兼平墓

兼平の家跡くく川田外
蠅小何せるきさるをて底も家
ま時乃石打波と蝶の夕
聖賢 不角 壽南

名所向集上

の巻

兼平よりふて死せり大方の魚 白雲

園地すま。二井の古き。あう。はう。破産

くくくく井の二玉もみ承る互 其角
御井へ行ふと何くもくら山橋 不角
鞍骨て釣く○井ハ潤くも果 寿角
流きに初あくくらの静くもと 貞依

義仲寺あり

と井も此のたうとくあふの月 芭蕉

志が笑。山。浦。花園。山。城

さし波成もあつて志が笑水所 佳元
帰り候や松川とる志が笑のま 如丸
志が笑城と何のし狼も菊花 嵐雪
名月も志が笑の破田代後の空天色 智目
咲くふりよの跡や志が笑のま 芭蕉
伝書れてきかなる志が笑は海もか 春郊

古所寸集上

の集

唐寄 里浦一ツ松

唐寄乃松心とるを鐵りみえ 芭蕉
 其日也や松の姿をみよ川松 希因
 唐寄やひし川年寄松乃雲 蓬之
 辛湯也雨もみ身はるる所松 蓬谷
 一ツ松や氷のくく此松松云 宗堂
 かゝ高く松乃も市に日線一 春郊
 唐寄也松の名ハさるみ日晴 松石
 辛湯也や宮傳一色ハ月老為 柳舟

父もちやあゝゝ中陰城一ツ松 素外

美路 入江浦

美路ハ二条又河之國ハ分也初時也 大坂 跡坡

妙田浦 浮御堂

鏡明く月と一入よ浮御堂 芭蕉
 唐寄也初時をふさるる松橋江
 帆のけぬ河まき也河國のた系也 貞角

姫制^七啼^八知^九也^十海^{十一}國^{十二}の^{十三}登^{十四}也^{十五} 原 馬房
諸^{十六}仙^{十七}也^{十八}海^{十九}氏^{二十}豐^{二十一}乃^{二十二}浮^{二十三}也^{二十四} 汶上
月^{二十五}夢^{二十六}れ^{二十七}る^{二十八}也^{二十九}也^{三十}也^{三十一}也^{三十二}也^{三十三}也^{三十四}也^{三十五}也^{三十六}也^{三十七}也^{三十八}也^{三十九}也^{四十}也^{四十一}也^{四十二}也^{四十三}也^{四十四}也^{四十五}也^{四十六}也^{四十七}也^{四十八}也^{四十九}也^{五十}也^{五十一}也^{五十二}也^{五十三}也^{五十四}也^{五十五}也^{五十六}也^{五十七}也^{五十八}也^{五十九}也^{六十}也^{六十一}也^{六十二}也^{六十三}也^{六十四}也^{六十五}也^{六十六}也^{六十七}也^{六十八}也^{六十九}也^{七十}也^{七十一}也^{七十二}也^{七十三}也^{七十四}也^{七十五}也^{七十六}也^{七十七}也^{七十八}也^{七十九}也^{八十}也^{八十一}也^{八十二}也^{八十三}也^{八十四}也^{八十五}也^{八十六}也^{八十七}也^{八十八}也^{八十九}也^{九十}也^{九十一}也^{九十二}也^{九十三}也^{九十四}也^{九十五}也^{九十六}也^{九十七}也^{九十八}也^{九十九}也^{一百}也

馬津

〜船の馬津ふ所の時鳥が 探芝

比良の麓 湊。浦

山^一風^二ふ^三り^四の^五も^六も^七も^八も^九も^十も^{十一}も^{十二}も^{十三}も^{十四}も^{十五}も^{十六}も^{十七}も^{十八}も^{十九}も^{二十}も^{二十一}も^{二十二}も^{二十三}も^{二十四}も^{二十五}も^{二十六}も^{二十七}も^{二十八}も^{二十九}も^{三十}も^{三十一}も^{三十二}も^{三十三}も^{三十四}も^{三十五}も^{三十六}も^{三十七}も^{三十八}も^{三十九}も^{四十}も^{四十一}も^{四十二}も^{四十三}も^{四十四}も^{四十五}も^{四十六}も^{四十七}も^{四十八}も^{四十九}も^{五十}も^{五十一}も^{五十二}も^{五十三}も^{五十四}も^{五十五}も^{五十六}も^{五十七}も^{五十八}も^{五十九}も^{六十}も^{六十一}も^{六十二}も^{六十三}も^{六十四}も^{六十五}も^{六十六}も^{六十七}も^{六十八}も^{六十九}も^{七十}も^{七十一}も^{七十二}も^{七十三}も^{七十四}も^{七十五}も^{七十六}も^{七十七}も^{七十八}も^{七十九}も^{八十}も^{八十一}も^{八十二}も^{八十三}も^{八十四}も^{八十五}も^{八十六}も^{八十七}も^{八十八}も^{八十九}も^{九十}も^{九十一}も^{九十二}も^{九十三}も^{九十四}も^{九十五}も^{九十六}も^{九十七}も^{九十八}も^{九十九}も^{一百}も

物^一も^二も^三も^四も^五も^六も^七も^八も^九も^十も^{十一}も^{十二}も^{十三}も^{十四}も^{十五}も^{十六}も^{十七}も^{十八}も^{十九}も^{二十}も^{二十一}も^{二十二}も^{二十三}も^{二十四}も^{二十五}も^{二十六}も^{二十七}も^{二十八}も^{二十九}も^{三十}も^{三十一}も^{三十二}も^{三十三}も^{三十四}も^{三十五}も^{三十六}も^{三十七}も^{三十八}も^{三十九}も^{四十}も^{四十一}も^{四十二}も^{四十三}も^{四十四}も^{四十五}も^{四十六}も^{四十七}も^{四十八}も^{四十九}も^{五十}も^{五十一}も^{五十二}も^{五十三}も^{五十四}も^{五十五}も^{五十六}も^{五十七}も^{五十八}も^{五十九}も^{六十}も^{六十一}も^{六十二}も^{六十三}も^{六十四}も^{六十五}も^{六十六}も^{六十七}も^{六十八}も^{六十九}も^{七十}も^{七十一}も^{七十二}も^{七十三}も^{七十四}も^{七十五}も^{七十六}も^{七十七}も^{七十八}も^{七十九}も^{八十}も^{八十一}も^{八十二}も^{八十三}も^{八十四}も^{八十五}も^{八十六}も^{八十七}も^{八十八}も^{八十九}も^{九十}も^{九十一}も^{九十二}も^{九十三}も^{九十四}も^{九十五}も^{九十六}も^{九十七}も^{九十八}も^{九十九}も^{一百}も

大津。里。濱 西針 等盤

大^一津^二通^三や^四第^五の^六は^七あ^八り^九何^十に^{十一} 苞^{十二}蕙^{十三}
か^{十四}と^{十五}も^{十六}大^{十七}津^{十八}乃^{十九}事^{二十}也^{二十一}も^{二十二}も^{二十三}も^{二十四}も^{二十五}も^{二十六}も^{二十七}も^{二十八}も^{二十九}も^{三十}も^{三十一}も^{三十二}も^{三十三}も^{三十四}も^{三十五}も^{三十六}も^{三十七}も^{三十八}も^{三十九}も^{四十}も^{四十一}も^{四十二}も^{四十三}も^{四十四}も^{四十五}も^{四十六}も^{四十七}も^{四十八}も^{四十九}も^{五十}も^{五十一}も^{五十二}も^{五十三}も^{五十四}も^{五十五}も^{五十六}も^{五十七}も^{五十八}も^{五十九}も^{六十}も^{六十一}も^{六十二}も^{六十三}も^{六十四}も^{六十五}も^{六十六}も^{六十七}も^{六十八}も^{六十九}も^{七十}も^{七十一}も^{七十二}も^{七十三}も^{七十四}も^{七十五}も^{七十六}も^{七十七}も^{七十八}も^{七十九}も^{八十}も^{八十一}も^{八十二}も^{八十三}も^{八十四}も^{八十五}も^{八十六}も^{八十七}も^{八十八}も^{八十九}も^{九十}も^{九十一}も^{九十二}も^{九十三}も^{九十四}も^{九十五}も^{九十六}も^{九十七}も^{九十八}も^{九十九}も^{一百}も

古今和歌集

ホクリトモ大津平野の夜 旧室

蟬丸社

琵琶の音は月の影のうらるる 鬼費
蝶の舞は夕の影のうらるる 不角
うしろの琵琶の海はうらるる 清徳

冥の清水

眼へ春を咽へる蘭と一輪の影 不角

湖乃月波細めしる清水の影 不角

相坂山。冥 冥照律。駒逢

駒逢うへ逢坂をうらるる也 心寄
お坂や花乃猶春車道 智月
お坂をうらるるや駒乃響虫 支考
駒逢をうらるる人乃うらるる 老牛

浮る味る系 一説くまぬの系に

京の地う浮か梅と柳の茂りか 辰角

○山城

京 織物 漆物 紅粉 白粉 扇

花並同く部への酒を以て武
於て心小桶と飲花の川
京の地う浮か梅と柳の茂りか 辰角

花並同く部への酒を以て武
於て心小桶と飲花の川
京の地う浮か梅と柳の茂りか 辰角
月名や洛陽のも社強なく
九市ふ見列ぬ雪の原さか
都ふも位まゝとる色も力な
小つわれ東へおれは善乃何の
横さや部へ半れ身いそく 西堂

一糸や九糸の九痛神一これ 欠佐
 都なりれや都乃宮のきこも古 信涼
 上糸ハましこ華や五糸うり 柳括
 深おハ糸の上よと深のまら 窓雪
 おまりやはくく京の貸中委 邦外
 風やお向ふま多物めりし山 丸丸廉
 糸おのおり字一十之お 乙維
 糸おくく此雪見あんマ京の山 常梅
 川秋色大根白き糸乃川 花線

授一ハんぬ人やふ糸のま 五陵
 傘一ハこる流くま此流がり 葵太
 第一月心月こと深一京の町 糸芳
 糸見の糸ハ糸の糸花盛 十人
 照るや日枝物を窓ハ枝の村付名 津家
 窓の糸糸と都ハ秋乃糸ハ糸 糸外
 糸中ハ糸と糸の糸を糸糸糸
 上乃ハ糸ハ糸と糸糸糸

相國寺 境内の井と云ふ處に麻以製すといふ云
に秋や佛小幡啼相國寺 兜焚

耳敏川

河を以て叫けりといふ事耳敏川京 常信

四糸 河系 伍檜 笠括

羊川の四糸は面して署介京 羊秋
おの流をさして見事川幼流小 涼袋

推せハ推ふといふ部と夏河原 免言
夕之也四糸河系より五人あり 婆百
軍合也君ハ四糸乃川東 百丈
夕之もみ作道は四糸北岸也 宍寄
寒月ハ四糸の橋より神獨 蝶菱
曲より仲居交りの交河系 雲克
影見也ハ風かけぬけら四糸川 花笠
之ハおハ四糸ぬらるる河系 意外

五糸 檜

千人乃く五糸標干ふ檜すゝと 奥南
 藤乃れ五糸も涼し檜の月 文考
 藤乃のよ糸成通くまに白か 乙由
 夕影も今ハ庭は形あつて 涼糸
 ちよ小乃月や藤乃けく次 糸外

壬午の寺

なま地兼菩薩

壬午ふまの病くも人々地兼教 京 威之

齊よまてたるんすふふまのこ ぬ之
 瑞梅の以り人もこまをれ様 乙由

朱小雀

かま就除よ朱雀の雲は神叩 津安

鴻原

おにの御

くみひくく西の光もるひを 奥南
 鴻原の外も御もさる島 尾雪

君承の月半ふぬはよ杜崎 桐雨
境めた柳ふおろく歌 際 如菜
花をせや、つれ物ふまの申 絶亮

東寺 羅生門 西のつこ

昔ふも柳心花とては中つ 信安
苗代や、東寺の塔乃ち境 朱迪

笠置寺。笠置山 極楽殿天王堂とてその宗こ

早乙女の味方、まろし 笠置寺 冬英
焼付かかくれおもち 雑の声 赤外

井境 山里。河。玉水。玉井。玉川。蛙

山吹や咲くと煙はありの底 鬼灸
玉のや煙へ遠くて因妙を 乙由
轉き人しとちやげ世小生れてハ 旧室
吹やめと山吹異し 柄取井戸 絶之
菜のあや何おちく井の里 冥明

玉川や蛙の春も光るし
 山吹や遠く枝へ枝へ
 名月や陸も井も玉麻石
 リの中や井塔ハ蛙の初ま
 川も雨ふるくも井水の蛙も
 草芽えや井水の春も
 山吹も春も春も井水の里
 風舎 仙里 君香

笠取山

杉葉の影も春も光るし
 は山吹も遠く枝へ枝へ
 夕暮も春も春も山の月
 勝政 仙里 新香

横河橋

小神幼女横河の橋も光るし
 夕暮

宇治 山川橋。山吹の影。水魚。細代葉
 宇治の橋も春も光るし
 宇治の橋も春も光るし
 伏見 仁口

名所句集上

〇八七

里人のり屋りのを橋のまね 梅翁
 子規のり小坊のるをのり 維舟
 手懸式を細代か 藤原葉 伊賀 正好
 山吹や宇治の橋那れ向ふ時 色蒸
 一こふ合戦なり小を量 許六
 細代を宇治のから龍昇とぬるを 一
 意をちよ奉ふせて細代守 支考
 川を乃ち茶之橋河乃伴加城 貞角
 膝より九月しとせれ細代守 小守

舟の上ちのり宇治の雪を茶 吉 青娥
 彬因のりハやと述て宇治の氷魚 吉 祇巫
 差少ゆく勢ふ宇治乃雲が 藝狐
 あれ雲山吹の彬小つしを 永我
 宇治川や鏡踏をを回しきん 百景
 若草也 波橋那れ乃被あも 羽列
 卯月来てちのり宇治の里 羽列 赤雲
 短あや床もせて宇治よ交枕 不遂
 月々宵宇治ハ入ふ多き場亦 松岳

ほんのつとく旭や自ふう治のま
 是ちけ人の花家を葉はく時
 五月かや波あるとも治の川
 川雲かやとるま葉ふる治の橋
 山城の氏を何人かうも
 橋杭もゆめく治のま外
 字治川や葉ぬ治のま外
 名亦い雲も治く字治ま外
 多やめや治り部乃瓜をつれ

大布 津家 宿舟 雲風 枯涼 碧天 露曉 新雪 素外

飯時を石をれりる細代も、

旭山 そ江のまに同名を

帰る花入月々向ふ旭やる
 あらも秋の目や何とて旭山
 月い海も葉もまきく葉ふる旭山
 美る花も花一昨乃朝日山
 まちまも花もまきく葉ふる旭山

貞佐 柳居 葉見 秋方 素外

名所句集

〇

興聖王寺 ツル石垣の山吹を俗に山吹の嶽と云
山吹寺 石垣の名古地を嶽又 貞依

茨崎末山萬福寺 唐修良 錦袋書

阿彌のこ乃ありとありのま書 鬼費
寺此月見ぬりろこまのま書 素外

西方寺 海陀山帝の寺と云

儀仏や茶室を此中の海陀山帝 津安

通氣茶廊

西室の以巾小包心書外 新波

平等院 扇書

紙燭めとく扇の芝小の書 春可

伏見 山。伏。野。里。津 二十石茶合取
扇書 千石太 扇書

明てる山とありと伏見や花のま 嵐雪

伏見人唐糸売試把子（り） 鬼賣
月とらん多井の二扱れ伏見糸 秋方
青北方也船り伏見の杜宇 蛙鳴

城山 日永松

地よくと城山梅咲ふらり 露沾
城山小紐子也（り）小六月 山店

油掛地蔵 日永西町境内ニ

かきふ仲かけとを部一云 任口

。藤の森

名ふきし花ハ地と扱る夏此表 一鼎

。深井の甲 山。跡 深井院

深井此経よりあぬ蟬の声 大坂 休甫
深井乃露の勢の玉此床 永 之浦
後世ハ唯罪深き乃露露 宜表

名所向集社

〇

深州の暮小むせても啼鶴 絶亮
古風小ずくも干るなる遠州也 素外

おぼ通ひ詠

深州乃好むしるやわのむ 絶泉

瑞光寺

法善宗としかる新加也朱心

若のふ心新加小原一也秋の色 鬼費

え改養みそ

待の筒此消ぬ扱ふそ林乃露 祇空

○ 稲高の山 ニツのやうい大さうの杉 の形

稲高の山花らんのもも松林く ツカス 正種

社地保 まろ 一此杉も若禁時 号朝

奉進(一)二月の瓜といふなり山 秀信

お梅やもらういまきく稲高の山 宗梅

東福寺

通天塔

稲高の山のしるい西を谷 何外

名所句集

九二

紅雲一てり目やりの橋の上 輕舟

大佛 方廣寺

大仏のくしろくさる龜籠の聲 宗瑞

大仏乃眼ももまあまらん望 一巴

大仏れ身ふらまらしんまきん 龜仙

大佛の優な山影や雪のち急 百葉

耳塚

耳塚も大仏殿の片とくれ 漢家

三十三間堂 大友教 社若

室小又花乃矢板也杜より 希園

豊國社

切三げらるる無藤家をあら 宗明

秋をよぞ代まき一帯 一珠

鳥のこころ山

鳥のこころも秋の心はのむら 欠依
鳥のこころも秋の心はのむら 欠依
鳥のこころも秋の心はのむら 欠依

清閑寺

堂にわが花は奥歯をほらるる 芳吟

清水寺

流

流るる水もあはれとて平たれども 天亮
流るる水もあはれとて平たれども 天亮
流るる水もあはれとて平たれども 天亮

音羽山 音羽流

山神の白名の水

流るる水もあはれとて平たれども 天亮
流るる水もあはれとて平たれども 天亮
流るる水もあはれとて平たれども 天亮

ぼくもやんま探せ世の原 糸田
 寺もやんま探せ世の原 旭 貞依
 滝戸樋の糸とあなまの糸 滝
 探せし花々探せし花々 亀嶺
 ちる糸は流るる糸は流るる 糸田
 流の糸も流るる糸も流るる 糸田
 幼依も流るる糸も流るる 糸田
 流るる糸も流るる糸も流るる 糸田

地と社

地と社、糸田の糸田の糸田
 糸田の糸田の糸田の糸田
 糸田の糸田の糸田の糸田
 糸田の糸田の糸田の糸田

田村堂

田村堂の糸田の糸田の糸田
 糸田の糸田の糸田の糸田

車舎 馬停

糸田の糸田

糸田の糸田

徳善寺の塔の中各か一の中
徳善寺の塔の中各か一の中
徳善寺の塔の中各か一の中
徳善寺の塔の中各か一の中
徳善寺の塔の中各か一の中
徳善寺の塔の中各か一の中
徳善寺の塔の中各か一の中
徳善寺の塔の中各か一の中
徳善寺の塔の中各か一の中
徳善寺の塔の中各か一の中

八坂の塔

ホウシホ塔ハ鏡にてまろ龜 古 百尺
あや花ハ坂ハ塔ハ一掃ハ島 素林
塔なる也ハ坂の塔ハ曲ハ島 素外

安井観勝寺

徳善寺の塔の中各か一の中

人の眼ふりまけてあも塔なる也 二面
徳善寺の塔の中各か一の中 徳善寺の塔の中各か一の中

靈山正法寺

徳善寺の塔の中各か一の中

源一さく山一塔二塔あり四角 板碑

双林寺

右一

名目や徳善寺の塔の中各か一の中

香山安養寺 存目

まる山のおとや多く乃海帽子 我樹

。祇園社 千代しの梅

白し清ぬ天も地もて花雪 宗次

花や人と祇園林の山鳥 正昭

若みふ神も海やわね舟 俊温

祇園林蛾の大詠の細縁 宗風

祇園の〜筆を初め 中長

梶う糸廊 意とりて世もつら 百合も又お目

梶う糸もし又新あとの時分 眉雪

今とる花を〜花のお百合子 青嶽

二軒糸を 中村を 春を

淋 さらけさめぬも新也豆腐切 乙由

七子小刀貝めや紙屋に豆腐切 秋陽

娘もや花の外も二軒糸を 花子

東山 東のむくのむらさき

蒲葦まろく移る海かいし山 嵐雪
 車小そ花んと伊をそ山 真南
 花の香乃虚空より廣し東山 正秀
 結構ふ花の薛経いし山 瓢斗
 花をそし月ハ蒼色しむし山 赤竹
 香葉其れ白湯ものけし東山 煮雪
 花と踏くゆる如やひし山 了因
 せうりや実時あける東山 素人

梅く花よとまろくむ東山 仙里
 せし山さうれもされおとを 花藍
 月影のり飛乃ひし山 赤外
 後ハ時紙をほほむのまむ 素吟
 石摺の純字を清あむおろを 淡々
 樓まむれ純字を清あむのまむ 素外

智恩院

智恩院のひし人梅ハ咲き色 信徒
中堂の形は古車と云ふ所の言れり
 智恩院

○花山。寺

花山よち公の物も旅も
あやふふけや縁糸の唐薬
則常

○栗田山 栗田口

灘上のう 焼物

提灯よ灘上のみちや物心之
茶筌地もよみふ山鹿
不南

ぬ茶屋

茶店に矢紙飾り金

物心よ 昔は下もぬ茶屋
昌夏

日光園 千本松

霞月夜へ白の雲も白きし
日の名や其れはく若き牛の古
日光園を耕てもそまぬはるか
方麻呂 正秀 希園

○岩倉山 日光郡の四方より

岩くらもこのさぬあ乃四の面
水花

南禅寺

湯豆腐茶屋

寺の存心少くや粟乃多白飯 龜齡

。神楽岡 吉田

雨もけき降ちて多う神楽岡 扇良

。白河 隆今言——山と石と也。

白河の都ももつげきの秋 徳保丸

。瓜生山

注ぐ世ふの程成まぐハの瓜生山但る 巻勝

大文字山 如意ヶ嶽

山の程成まも見え大文字 鼠雪

。紀社 下加茂。瀬小河

ちかきハリ川ちり山紀川 言及

帳もせせこの小河もふの深美 榮舟

か茂りや月見の客ふたあさる 去来
か茂りれ鴨池鉄橋よき見か 貝南
せみやかも川こころる牛車 鼠雪
あやめ軒鴨の傍橋今あ日
こころしむなみの海と年忘 紫雲
か茂川の二形よめしき水 風玉
神の美れさよよの筋柱宇 葉推
ふる帝殿乃と橋やかも堤 柳枯
春の月河系春とを此月 溪

初雪や河系のえふ大ふ字 宗端
納涼よも洗木静けし紀川 春郊
雪の池よさるや紀の川よみ 絶亮
まのいさも更くか茂川報河 冬英
矢よりの雨乃舉月此紀川 南ア 芦皓
水よさるや紀の池木静けし河系 小知
下か茂や人と林乃さる川 小丹
ホウじや末とつ所のか茂河系 素外

矢脊。里。河

みま結々山ハ結々ハ船の里 宿齡

大急。山。里。川。炭竈。大系木

大系木。藤の如く。藤。自。大。此。可。角

腫のほろ。回系

此。川。不。同。く。と。結。の。ま。り。が。し。由

金閣寺

強。り。や。古。き。ま。り。此。事。を。言。う。跡。念。む。し。も。少。き。り。小。あ。る。こ。も。里。地。旧

北山 松茸

北山。り。旭。の。光。ら。る。若。葉。が。五。種

鞠子山 寺。九折。小。茅。漬

名所句集止

の巻

花は見えぬをせむるも鞍馬山 大坂 徳元
 見えぬも初らるる此屋山 大坂 梅 幸勝
 無くよふらるるをたれは法の鞍馬山 京 仲勝
 三日月とお海と見えぬ鞍馬山 枕草
 ろ絶と見えぬ乃鞍馬山 柳居
 草拵ふ鞍馬山の見えぬ山 素外

。貴布弥社。川。山 流玉滝

小といふも希弥の杉は新法 雪高

。比叡山 都の不足。我立松 ▲ 幸八山

山の京も一見梅あははの海 貞室
 日枝をくみつるのさつと砂分 言小
 言根を中砂打かえむ夏乃殿
 次小まのれ根中申堂下幼原 一袂
 五月もやれり京又ぬえの山 三石風
 大日枝や一紙引控一ちあ 芭蕉
 早合も双林塔乃流のちる 其角

思を以てのさかたも思技のおほ
初もさきせられ先よむえの山
於茂れ我多紀の八希と若葉
水家より後や明もさる葉時
比敷からしし皆の良定はかしか
大野 如泉 乾什 素人 津家

○ 横川 — 諸書に近江にあり方角鈔に倣

初雪や横川の移れ方一 千那
さるふ時ふ横川も千葉け 吾伴

○ 長等山 ▲右に日し

おあししや鴨の後時を葉城 正秀

○ 加茂社 二葉山。日陰山。鴨河の向多く下か後のさる紀の示に叶す

たそもやとんと後と鴨神地お 貞徳
卯のもちやうれの伊亦地が茂清 貞角
雷乃か岸に眠れらるるが 宗瑞
上鴨のさきほろあさるるありあ 平妙

名所句集上

百五

○小師の衣・炭竈 矢耆の道も小師の山と小玉
 年玉小梅折小師の菰のふ
 言水
 炭竈也比厨の成小師の雪
 若接 金勝
 猪の狼の多く蟠の輪のとの月
 掃の清之
 夫し一つ子の紙の烟の也も小の師の夕の折也
 追橋

○折小町の墓 市京師海傍の寺に玉をおはせ
 陰の帝小師の小の町の蝶の瓦 千春
 麦の時の折の振のとの里 希園

○折小町の墓 市京師海傍の寺に玉をおはせ
 素外

○氷室山 氷室也

菰のきし根のあれ小の室の山 好道
 伐之とお林の火也氷室山 春郊
 帷子れ人備をまの出室山 素外

○松岡山

漁火を松岡山乃岩はし入重
 招洋

新刊集

五

紫不蹄

は紫蹄とよまふ山や桜梅後漢常之
暖のころハ草をえしつる見時 不登

標蹄

大和氏

まめみくこははとふくまの草標 一音

雁子う輝

雁子う輝ふせきぬらふま外名古屋後漢

雁子の輝は尾ふ白し初らる 希因

雲林院

了志居

云のうらや雲林院のまろん外後漢心次

蓮莖蹄

瓜の皮むしるふや蓮莖蹄 芭蕉

北野天神

多治一松千本松 敦向松

梅さきしとてあしむる燎のり 言水
木のうるかゝ西ふ若のちや子親 乙由
涼さこの葉を川ゆへに連歌を
神と梅さきし後よちちま 洪
神垣の月見や雪乃一松松 紙叶
年ふりやも候も神の場の松 結裁
梅封して北路はき小松乃ま 五種
け神の伝おしねや少神もま 宿部
初もあふりやありよの松の枝 宝集

菜のちも遠小向き清浄時 津家
杉原一すまの雪も夏は日 素外

○紙屋川 仁和川氏

水のうもさるるも氷乃純を河 ^山 溪善
薄氷の隙も麻やま紙を河 ^名 溪親
梅よこむ六田也隣かまを川 沾徳

○平路社

新刊集

巻

源平北極膝一也神の場 不釜

。双の岡 一二三とニラの思ふこがしひの池

連つ川やなすしひの思はぬあ 永利

。鳴瀧 川 碓石

鳴瀧のさあしやせと合ふ都云 如雪

鳴瀧乃世みし構をぬるが 也川

。廣澤

廣澤は八月と里外の勝も鳴 六水

廣澤も襟休めふ他の目 笠秋

。暖峯 跡。系。山。里 硯石

暖峯のやまは浮世の流流の結 紙舟

余花よりの暖峯まこきし二つ洞 言水

暖峯中の林 さくらさくら 嵐雪

林さの急ふふくぬるふ 雲費

小波の聲も可成り打鐘を康の音
 文竹
 むつゝも波の我もしきり浪の聲
 尚白
 浪の聲も八身も半歩もぬる花の聲
 荷今
 秋やけり波の音もきこ浪の我の町
 瓢竹
 西東いつしき浪の我もきこ浪の合
 東湖
 さこのの波もよ浪の此もきこて十之板
 沽剛
 尾花もも雨の音もきこる所の所
 板橋
 都あそ浪の音もきこる所の切所
 沽涼
 今朝の秋もきこる所の秋も浪の音の要
 笠紙

浪の音もきこる所の秋も浪の音の要
 風舎
 浪の音もきこる所の秋も浪の音の要
 乙果
 浪の音もきこる所の秋も浪の音の要
 意外

邸、宮。 紫の垣根 玉木の多結

舟もきこる所の結もきこる所の音
 芭蕉
 うねもきこる所の結もきこる所の音
 乙由
 舟もきこる所の結もきこる所の音
 眉
 つまのの音もきこる所の音
 佐勢、
 免生

名所詞集

の巻

夏州小渡く馬楽の名を結ぶ 希周
 唯月疎り思未れを結ぶ 涼代
 臨くもや秋の中ちるを結ぶの秋 素竹
 木はくもや先ぬるまのを結ぶ 木見
 見け入や故も秋の来こは結ぶ 雲廊

千代の古通

維よれ危よあ代の古を川に結ぶ 柳結

天鏡寺

名目小雨は海も天鏡也 貞徳

海殿 大雲寺の内田地不詳

木くしも結ぶ久しき海の名 素外

釈迦堂 法華寺

一口ボヤもあろの結ぶ釈迦 一鉄

妓王寺 往生院と云

これ達の世に於ては 採りては 願の那 希因

化之跡

何れも一也や 浮世の夢と 朝嵐 依律丸

清隆川

後 後 後 橋

清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川

清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川

清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川

愛宕山

大権現

朝日岳 日暮山 古 法 杖

清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川

清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川

清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川

清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川

清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川

清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川 清隆川

名所物語

の巻

秋しも秋も試み法下あ 活涼
郊也魔も亦も若紫の深渚云 素外

。松の尾山

朝くれ赤きことやそり秋の夢 凡玉

。高雄山 紅葉

名所しをわらう北にうと山 位徳 別次
入おの嵐も怒りわらうか 淡く

編妻也巻く行りふさ雄山 乙雅

。大井河 首跡川 西川 氏・船

あつゝ眼系徹くの級船大井河 維舟
ちきしげも甲系茂も大井川 又足

。嵐山

花山より咲ぬる花やあふふ物 法親
六月や海も雨もあらし山 色甚

のくもや名のく風乃山は京 吳胡
 来てるんれを梅山つり一風山 素行
 秋風の夕より梅もくせりし山 乙雅

小倉山 里 定家乃山莊の法

小倉山 茂くや麻乃隠れ里 京 好現
 之まのちも園の後の茂く小倉山 知石
 夕暮や秋浅ぬぬふく山 二角
 ちくくくや夕暮の舟ぬ小倉山 超波

極めて海のわらち紫むく 素外

ニ寺院 回亦

小くく山と花と也ニ寺院 京 定治

西山

ちくくくや西山みくもくろはと 梅津 色明

花の寺 梅え菴と云 西行梅

誘ひあつる人よのんじおはる 小丹
群川の系、静ふらしたる 素外

○大系路。山里 小塩山の下也

你雪——て思ひせぬ大系人 花重

○休田 去竹衣 尺。里。系。河系 东竹田 西休田

深井の勢ふ流る心休田界 系 重吉
るるそ休田の里もいつても 乙例

○身羽 山。里 上を羽 下を羽

つらつらしてを羽田の橋もはるる 系 梅盛
こゝろて啼けとて於啼ふ子親 去此 定
系入やる所の田植のるる中 卯七
牛心なのしを羽たわらふさる 去此 一髪
まなつぬすもを羽の吹雪 去此 平砂

○秋乃山

帝座八妻也 恋塚秋乃山 名古 正重

羽束師の虫林 羽束師社

名月や知りのあはれとて 千代冠

一陽井のゆい思ひのゆいとのあまてあのゆい今
名示れ各名向とありめ無子小思ふよりしゆいむ程と
かろふきの求めまきりかろけれいあむゆいかなむか
年あるあむめもあむあむの古調とてまきしむむき
終送りぬまゆいゆいのゆりて余はあやまえらん
あり八面もまきらゆいゆい

まゆいゆい杜とて極や稀りも 葵園

山 山宮 八幡宮

山崎とゆいゆいゆいの使 拾得 政次

まきらゆいゆい山崎乃ゆい 京 又郁

山崎ハ定れおあまを郭云 津富

宗鑑旧地 井戸あり

宗鑑う刃えぬハゆいの杜若 古 秋也

宗徳寺 たうちもと云

新編集上

山宮

みさる杉も腰や伸して交亦立京 兼源

木食良寺 親善寺と云

まゝ梅や木食良寺の科院人 史邦

○狐川

舟竿や凝くこしく狐川堤 吉重
葉菊のまみちや移りて狐川 正次

○淀。里。跡。後。り。は。み。車。曳。船

郭么後や〜淀乃らみ車 梅翁
向東のさしけきまいも淀の水 言水
ぼ〜きにあたり切きも淀堤京 保友
五月も小淀引舟やらみ車 徳懐
保〜もまき淀乃らみ車 信安
淀もや夏の人々も山ろ〜 鬼貫
芳乃仲小何や〜るもみ車
川風の昌浦甚有らる淀の町略示 曲華

五月雨や葉よ何れは淀の人 古 敬石
 淀舟や啼き鳴るまゝ 古 立志
 淀の渡り雪うき 古 承肝
 淀におく舟夜し柳 古 春城
 淀舟乃のまや葉葉 古 乙由
 柳子木の淀城 古 柳結
 初春の淀舟 古 希固
 初春の淀舟 古 涼節

淀川と減きし舟 古 春郊
 舟は多しよ 古 素蘭
 舟は多しよ 古 文果
 舟のおく舟 古 霧水
 舟のおく舟 古 赤外
 大橋の下 古 豊貴
 大橋の下 古 結涼

○英二豆 内牧。森。那。里。後。甲斐。三。石。名。を。

月光もや情身よ英二豆の子祝 珠也

暮虫や英二豆の内牧乃美菰川 子紫

○ホ津川 泉川

よもぢかやホ津ハ河奈込所 柳結

○八幡山 八幡宮 男山 旭の峰 後生川 石浜町 月軒竹

八幡山も山旭の夕の霞 雲布

ホくも父ぬ山や昔田のやん 松津 三章

はつきそこれ絆ふぬ白くむの坂 女磨

まはしのあらしいしそん男山 凍布

筆やと小月軒のどとと山 帆箱

燭仰とゆふく山や石浜町 結露

さしきんしと山も男衆神の月 素外

秋風女帝花う塚

若井やうねるく男山 蒼狐

名所方南集乾之卷終

方南集乾

